

講演会

日時：2009年2月21日（土）

場所：広島大学教育学部第1会議室

演題『浪花節人生を振り返って』

講師 吉田 弘司先生（尾道市立三庄中学校 校長）

皆さんこんにちは。ただいま紹介頂きました、22期の吉田です。今もう演題については浪花節という日本語で分かって頂けたと思うんですけども、浪花節自体、聞いた人いますか？学生さん聞いた人、ちょっと手挙げて。いない。わかりました。今日は古い文化にちょっと触れていかれたかもしれません。今日は特に西村先生と宮本先生も、ちょっとやらんと帰らさんということをしきりに言われてましたんで、さわりぐらいどんなものかということ、ちょっとだけ紹介したいと思います。今言いました、西村先生にはですね、学生時代は怒られることばかりでした。ろくでもない学生だったんですが、いろいろ叱って頂いたおかげでですね、ちーっとはまともな道を歩むようになったんかなという風に思います。1番思い出深いことはですね、遠征先でトイレに行きました。そこでですね、多くの方がバレーボールシューズを履いたままで下駄をとことこと。私もついですが、「みんなそうしてるからええわ。」と思ってですね、バレーボールシューズのままで下駄をはいてとととと行って、出ようと思ったら西村先生がぱっと現われてですね、「おまえは何しとるんじゃ！」って言ってぶち怒られたのを未だに覚えています。そのことはですね、教職始まってからずっと自分の中にあります。「小さなことを大事にしないと、大きなことはできん！」とその時も西村先生に言われてですね、ほんとに身にしみた思い出が今でも痛烈に残っています。叱られた経験があるわけですが、やはり叱られないと人間はなかなか本気になって伸びないことがあります、どうぞ叱られることを大事にしてほしいですね。これをまず第一点、みなさんに申し上げたいこととございます。さて、浪花節人生、浪花節というものは、なにものかということは後ほど紹介することに致しまして、ここではちょっと歌いませぬ。今日はですね、こういう中身でお話させて頂こうかと思っております。4番目5番目は簡単にささっと、1から3までをしっかりと話をしてみたいと思っております。言葉は若干、丁寧な言葉を使うと、舌を噛みますので、こういったざっくまばらな話し方をお許し下さい。

ちらっと出てきます。これは私の大学時代、使用前、使用後でございます。バレーボールに関わってですが、こういう話です。自分の経験、それから怪我に泣かされたのでそういう話。それから逆足、その他、蛇足、関係ない懐かしいところをちょっと見て頂こうかなと思います。まずですね、経験は、私は運動が苦手で、なんで体育会には入ったんか分からんような人間だったです。小学校時代は走らせたら、いつもドベか2番目でした。親父にも怒られました。「そんなにでかいのに、なんで足が遅いんか！わしはものすごく速かったんじゃ！」といつも親父に怒られていました。中学校の時にですね、宮本先生、中学校が一緒だったんで知っと思って思うんですけど、1年生の時、帰宅部でなにもしておりませぬ。このとき思い出深いことが、宮本先生がバレーの授業の中でドライブサーブの模範演技をされました。「うまいなあ。」と思って見とったわけです。これは大学の入試の時にお会いしてそういう話で、「ああ、牛田中学校におりましたわ。」と。あの時のああいうので覚えとったら、むこうも印象深いものがあつたみたいですが、お互いにそういうことで顔が分かりました。7クラスあつた学年ですが、なぜか印象深い方でした。1年生の時の9月だったと思います。クラスマッチというのが、学級対抗の水泳大会でした。この時に、小学校の時に水泳クラブというのにちょっと入っていたために背泳が出来たんです。背泳、バックというのなかなか出来んのです。みんな、沈むんです。腰が落ちるから沈むんです。それがなぜか僕は出来たですね、選手で出るということになりました。それで、出ましたらですね、ぶっちぎりのトップでゴールインしたわけです。しましたら、その日のうちに水泳部の先生から「お前、水泳部に絶対入れ！」引っぱりに来ました。じゃけど、もう9月、10月になって部活に入れと言われても、他の水泳部員は4月からずっとやってますから体力付いてるんです。僕は遊びまくってますから全然体力がありません。僕は1ヶ月でダウンしました。もう、出来ませぬ。「しんどくて辞めます。」言うて、行かんようになりました。それから冬の間ずっと辞めておりました。次のシーズンに先生がもういっぺん誘いに来てくれたんです。「お前素質あるんじゃけ、やれ！」言うて、すごいおだてに弱い人間ですから、ついそれで頑張ってみようかいうことで2年生からまた始めました。ところが2年生が始ま

りまして、広島市内の大会でも3位ぐらいまで行っただけなんですけど、3年になったら優勝出来るなどということだったけれども、残念ながら転校しました。これはちょっと家庭の事情がありまして、これ浪花節人生と名付けた1つの理由にもなってるんですけども、そういうわけで百島中学校に行きましたら、水泳部がありません。小さな学校でしたから。しょうがないですね、野球部に入りました。ところがですね、野球部の練習は毎日同じ練習で1つも面白くないんですよ。バレー部の練習をある日、ちょっと帰りがけに違うルート通ったらバレー部のコートがあってですね、そこを通ったら、鬼のようなコーチがおったわけです。高校生がきて、鍛えよったわけですけども、もうしごきでしたね。2mか3mかの至近距離から思いっきりバコーンって打って取らんかったらぶち怒ってから蹴り飛ばしよってです。僕はそれ見て感激したんです。これじゃ、男のやるスポーツは言うてね、なんか知らんけど、それに感激して、バレー部に入ったんです。ところがそれが6月の終わり頃、6月でしたかね、入って始めてもすぐ県体予選がきて、負けたらすぐ終わり、ですから1ヶ月半程度。高校に入ってもですね、バレーに感激していましたから、バレーに入ろうということで入りました。2年生になった時にですね、「キャプテンやれ！」ということでやったんですが、私はキャプテンになった以上は勝つチームを作りたい。ですから、むちゃくちゃ部員をしごきましたし、自分もトレーニングを一緒にしました。そしたら何人も練習に来なくなりました。弱小チームでしたから。「お前には付いていけん。」しょうがないので、「お前ら好きなようにやれ、1人じゃバレーは出来ん、わしが身を引く。」言うて辞めました。部員と喧嘩もしました。後でですね、辞めた後になんかスポーツやりたいなと思うて、サッカーの同好会を作ったんです。日曜日なんかですね、「お前なんでサッカーなんかやってるんか！」と、「なんで辞めたんか。」と文句つけてきたんです。「お前らが言うこと聞かんけ、わしは辞めたんじゃ。」言うて、喧嘩になりました。部室の中で殴り合いになりました。一発向こうが殴ってきて眼鏡がふっ飛んで、僕は近眼ですから見えません。反撃しよう思うて振り回したら、全然当たらんのですね。しょうがないけ、どうしたら当たるんだろうて、振り回しながら考えて、「あ、フックで当たらん。距離がつかめんから当たらん。ストレートだったら当たるかもしれん。」思っただけですけど、ピュッと伸ばしたらバコーンって当たってですね。3発ぐらい殴ったら向こうが逃げてですね、喧嘩が終わってしまいました。あとなんも言われませんでした。つまらない話でごめんなさい。実は高校に入る前、もう1つあったんですが高校に入ってそういう状況で、1年3ヶ月ぐらいしかやってませんので、レベル的には非常に低かったんです。入学してバレー、大学に入ってもバレーをやろうということでですね、始めましたけども、入ってすぐの頃はアンダーハンドパスがまともに相手に返りませんでした。本当に悔しくてですね、広大の千田キャンパスのグラウンドを泣きながら走った思い出があります。さて、これが大きなことだったんですが、1年生はまだ千田のキャンパスから通わなければなりません。練習は福山であるということですね、桃島の自宅からバイクで夏の練習、強化練習でしたから、始めの時に通ってたんですが、その時に練習に遅れそうになってつい焦ってバイクを運転しました。車の横を通過して行きよったらですね、車と車の間から別の車が右折してきたところへ、単車ごとぶつかりまして、右足の下腿部が真っ二つに割れました。「バレーが出来んなあ。」と思っただけでね、がっくりきたんですけども。このですね運動不足では大変弱りました。治療する時にですね、宮本先生、橋原先生に大変お世話になりました。つきっきりですね、いつも僕のそばで、僕は松葉杖だったんですが、世話してくださいました。そういう方々をですすね裏切るようなことをやったんだと、1番下にありますが小指ならぬ、おならの思い出ですね、あの、運動必死でやる人がびたっと運動を辞めると腸がものすごい働きが鈍るんですよ。だろうと思えます。勝手にごめんなさい。強烈な臭いおならが出るようになりました。忘れもしません。千田の1階から5階上がるのにエレベータに乗ったんです。3人だけです。他、誰もいませんでした。そこで私が一発こいたわけです。そうすると5階に上がって扉が開くまで2人はもだえ苦しんだわけですね。本当に、もだえ苦しんでいました。僕はそれを見て、ばり喜んだという、変態なおかしな人間だったんですが。そういうこともありますし、おならについてはですね恥ずかしいんですが、いろいろ思い出がありまして、竹井先生、今日はおいでになっていませんが、夜間練習が福山であった時に、2年生の時です。百島からですね、大学の福山のキャンパスに行ったんですけど、そういう時に夜間練習があると帰れなくなるわけです。そういう時に、竹井先輩がうちの家泊まれやっということになって泊まらせてもらって、その時ですね必ず毎晩、泊まる時は必ずコーラを飲ませてくれるんです。しこたま。ゲップで出ますけども一部は出きませんので下から出るわけです。そうすると、明け方頃にそれが闇間に放出されるということですね、その音で先輩方を起こしてしまうという話もありますし、それから、高校時代にはですね、フライングレシーブをして格好良く滑って練習しよるところを先輩の彼女がちょうど見に来ったんです。先輩はわしらに向けてばんばん打って鍛えよるわけです。僕はフライングレシーブでピューッと滑ったわけです。滑ったところでばっと出てしまっ、その2人の先輩の彼女達はきゃっきや笑い

転げながら帰ってしまったという大変赤面した思い出もあります。まだまだたくさんあるんですけども、恥さらしなことであります。そういうことも人生にはあるということです。2年生からは特に私が苦勞したのは、指の脱臼、捻挫です。ブロックを抑え込むために、どうしてもタイミングがずれた時にですね、私は指が短いので、なかなか指の形を考えられずに、真っ直ぐ伸ばしたまま押さえ込みましたから、もろに脱臼しました。福岡教育大に合宿に行った時には、指のこっから先が真反対を向くような脱臼もしたこともあります。それから、親指はしょっちゅうでした。これは非常に苦しみました。それから、それがまあなんとか治ってきたかなあ、骨折からも回復してきたかなあと思うと、4年生の春に大髻筋の痛みを覚えるようになりました。ですからまともに出来たのは、3年生ぐらいかなあという感じですね。3年生の時、出させてもらった五大学の大会ではですね、落石くんという1つ下の子が、センターの子がブロックがどうも不調だということで、僕が代わりにレフト・センターで出たら3本連続でブロックポイントをあげたのをすごく覚えています。ブロックを克服した次第であります。4年生の時ですね、下に非常に有望な選手がたくさんおりましたので僕の出番はなくなってしまいました。

それから私が苦勞したもう一点、逆足です。右利きの人は右、左で踏み切りますが、僕はなぜか左足が極端に強かったので、バレーを始める時に左から入ってしまったんです。そのほうが助走のスピードでぎゅっと止まれるので、左から入ってしまった。これはですね、バレーのノウハウ本を見て初めて分かった。外国選手の助走から踏み込みの分解写真を見たら、私と違う足で入ってる。「あれ、わしは違うんじゃないかなあ。」いうことをずっと思っていました。悪かったんですけど、もう1つは、逆に、右足は骨折しましたが左足は無事だった。強い方の足は無事だったんで復活に向けてのトレーニングは楽だったんです。左からくっつと踏み込んで、右足は添えるだけでしたから。そういう一件はあったんですけど、逆足には苦勞しました。これはですね、もし研究したのがあるよということでしたら、私はずっと現場において、そういう研究はわかりませんが、逆足の研究があれば読んでみたいなあ、どこまで研究が進んでいるのかと見てみたいなあと思います。これはPTAとか地域の人が私がバレーをしよるところを撮ってくれた写真であります。右上、それから左上、右下、これは全部、PTAのバレーボール大会でした。因島内の広島市PTA連合会のバレーボール大会。これは就職した年ぐらいに、町内のバレーボール大会です。ネットは2m20cmなんですが、男は3m後ろのアタックラインの後ろから打たないけんというルールがありまして、男女混合でやりました。次、お願いします。これちょっと大きくして、これ見て頂いたら分かるんですが、右肩はすごく引いてるんですが、右腰これが引いてません。左右で入るために、速いスピードで入るとどうしても右足のほうが少し前に出てしまいます。それでこういう状況になっています。そうするとどういふことが起きるかという、上半身と下半身がばらばら。上半身は右肩後ろに引く、下半身は右腰が前に出てきている。逆の動きになっておりますので、もう1枚見てもらいましょうか。これもですね、PTAです。これ見て頂くと分かるんですが、かなり意識してるんですが、それでも右腰が、若干前。そうするとですね、右腰が前出て肩引いたら、当然戻す動きが出てきますから、上半身が円運動を起こしてしまう。そうするとスイングが円運動、掌がこういう風にちょっと内側に向けた円運動を起こしますので、そうするとボールがまともに掌に当たらないことが起きる。親指側にちょっとずれるんです。ですから高校時代からよく当たりそこねがありました。指の右手でいうと親指側にボールがずれる。当たりそこねということが起きていました。当初はですね、やりどころが全然分からなかったんですけども、大学に入ったらそういうことも克服してミートが出来るようになったんですけども。初期の段階ではそういういろんな不都合が起きるということで、逆足には非常に苦勞した思い出があります。これは、就職してから何年ぐらいかな、因島内の社会人のバレーボールチームがありますのでその練習で直しました。ですから今はどちらでも飛べます。左右でも入れるし、右左でも入れます。これについてはですね、例えば追イトスなんかですごく短いアタックラインの方に来たような球を、踏み込んでいってこっちに打とうとする時とか、それからセンターでいえば、ターン打ちをする時とか逆足で入るとものすごく楽です。身体が自然とこっち回りますから、すごく楽なんです。通常レフトから打とうとした時に、レフトのクロス打つためには、相当意識してクロスにスイングしないと出来ません。こころ辺のところは自分の経験で分かったんですけども、研究があればまた教えて欲しいと思います。

これはつまらんいらん話です。いろんなことが入試ではありました。特に私は鉄棒がだめでしたんで、逆上がりで上がったから合格できました。3種類ありましたね。鉄棒のテスト。1番みやすいのが、逆上がり、後ろ回り、下からぶら下がって足かけ上がり。次に難しいのが、蹴上がり、後ろ回り、足かけ上がり。1番難しいのが、振りあがり、巴、蹴上がり。そんなもん出来るわけねえ。1番みやすいのやりましたけど、そこで、逆上がりで足がそこまで行くんですがそこから上がりきるまでの時間が長かった。苦手なことをやるのは、本当に苦勞したんですけど、周りが「頑張れ！頑張れ！」声援の声が

飛びよってです。私は聞こえませんでした。上がるのに必死ですね。先程、宮本先生とお会いした話をしましたので割愛します。ちょっと懐かしい話、というか写真を見てもらいます。これは大学時代にですね、合宿を初めて行い始めた頃です。みろくの里の神勝寺というところに、合宿所ができました。その時に一緒に撮った写真です。これ分かりますね。一緒にならんでいらっしやる。この方わかりませんか、添川さんいうてですね、今、庄原だったかな特別支援学校の校長をされております。バレーはですね、友達付き合いでやって、なくなっちゃった。野球やれば良かったんだけど、ソフトボールの方に深い関わりをもってらっしゃいます。この方はもと沼田好高校の監督、亡くなられた横田先生です。で、この方分かりますか？これは…、どこの国だったっけ。オリンピックの決勝、アテネだったですかね、アテネオリンピックの男子バレーボールの決勝戦の審判をされた伊藤さん。テレビで見ましたら、眼鏡をかけられていましたから、かなりふっくらされていますので、多分同じ人とは思えません。これ、池内先生、分かりますか？ボンです。これはなにをしようかという、合宿の時に寝煙草をしてですね、このボンさんが焦がしてしまったんですね、ここ。これで、こういうしょうもないことしたいうて、証拠写真いうて写真を撮りました。ちょっと懐かしい思い出です。これは福山キャンパスのプールでの寒中水泳の時の写真です。これ、3社ぐらい新聞社が来て写真撮りました。その時の大学の人もですね、撮ってくれたんで記念に残しておりました。これ、私でございます。次お願いします。懐かしい。これ、卒業色紙です。いろんな人が書いてくれています。ちょっと部分的に大きくしたものをお願いします。これ、橋原先生が私に書いてくれた、ちょっと怪しげな文ですね。「私はもう1年残りますが吉田君は去ってしまうのね、寂しいわ。」ちょっと怪しい感じなんですけれども、次どうぞ。これ宮本先生が書いてくださった、たった一言、簡潔に「頑張ろう。」ということで。これは佐伯先生。1期下ですね。「大きな単車にヘルメット、ごつい身体に鼻の穴、忘れそうにありません。」なぜか鼻が私のトレードマークでありまして。これは大石、同期の東京におります。次お願いします。さっき大石さん言いましたね、それから女性の橋本さん、それから原田さん。こういうのを書いてくれたなあいうことで大きくしてみました。

バレーボールの話に戻ります。指導についてですけれども、私はですね、不幸なことにと言いますか、割と移動が多くてですね、こんな成績しかあげておりません。県大会でいうたらベスト8が1番ええとこっていうくらいです。2回戦ぐらいが1回、南部地区ではこの程度というくらいです。と言いますのが、ここ書いたんですけども、赴任した先が大抵バレーの弱い学校なんです。どん底のチームを預かってですね、やはり3年計画で、1年目こうで2年目こうで、3年目ここで花開かそうっていうことでやるんですが、3年目で動いてしまうんです。3年過ぎたら動く。長くて4年。だからがっかりしてですね、若い頃は正直、部活動への意欲を失いました。強くしても転勤させられるなら、しとやない。未練が残りますから。3年経って、さあ次は選手権、さあ県大会でここまで行かそうというレベルに行くと動くんです。で本当に気分悪い、若い頃でありました。こういうことでもあったんですが、自分は気付いてなかったんですが、私はゲームをですね、後で子ども達に練習を与えに行く時にデータがあると、やっぱりどういうミスが出るんかというところですか、どういう風になってるかいうんを目で見せてやらんといけないということで、学生時代、西村先生がされておられた手法を取り入れてですね、こういう決まったポイント、それから相手に拾われたもの、Pはエース決まったもの、Rはプレーが続いたもの、Mはミスです。Tはトータル、下にあるのが数でありまして、ここにパーセンテージを表しました。こういうのが出てくるわけです。サーブのミスが14.8%。ものすごく高いですよ。こういうのを見せるとですね、こんだけミスが出るんかということが分かるわけです。アタックにしてもですね、ここにこの選手なんかは24.3%打ったらミスをした。これがまず、自分の課題として捉えられるんで、こういうのを見せながら、あるいはブロックもそうですが、アタックのミスが4分の1、4本打ったら必ず1本ミスする、信頼されるアタッカーにはならんわけです。こういうのを子どもらに見せて、もっとここ、何%にぐらいにしようやというように、これは練習の中でそのパーセンテージにしなければ、試合の時にはもっとミスが多くなるで、緊張するから、筋肉が硬くなるので。ということで指導してきました。もう1つやったのがですね、ゲームの流れを全部逐一、細かに追って作っていきました。今この部分については、テレビなんかでもよう出てきますけども。これはですね、南部地区の大会の決勝戦、女子の大会です。当時、豊中は県大会でもしょっちゅう優勝しよるような非常に強いチームだったんですが、1セット目はぼこぼこに勝ちました。これはですね、この大会の時に子どもに与えた課題がサーブだったんです。当時まだ低いネットだったんで、オーバーハンドでサーブレシーブするとほとんどドリブル、ダブルコンタクト取られてましたから、ストレートの1番奥ですね、しかもサービスエリアが右半分3mに限られていた時代ですから、ストレートの奥、1番深いところを狙って、ネット上50cm以下を通してそこへ、入れえという指導をずっとして、そのサーブが功を奏してですね、かなり相手を苦しめた。

で決勝まで行ったということです。平均身長は160ないぐらいのものすごいちびっ子チームだったんですが、サーブ1本です、勝ち進めました。エースもそんなに高くないんですが、アタックのコースをしっかりとさせて、こことここに打てと。ここは絶対、大抵のチームが空くからということで確率のことを挙げて、指導したチームです。次お願いします。この2セットが勝負の分かれ目だったんです。どこに問題があったかという、まずここなんです。この重井中が取ったタイムアウト、10点までいったあと、2、3点追いついてきたので、ここで慌ててタイムアウトを取ってしまいました。流れからいって、メンバーチェンジをしたりですね、いろいろなゲームの流れが起きてくるんですが、ここですね、このあたりで、この早く取ってしまった1回のタイムアウトを取れとったらという後悔はずっとしております。これは先ほどのええコンビでアタックで決まったよという印を基にですね、さっきのデータを全部集めて集計を取ったんですが、こういうことですね、自分の監督としての流れを読みきれてない部分、非常に未熟だった部分を後で痛烈に反省しました。こういうデータを示しながら、ミスが出たところからゲームの流れがどう変わるとるかとかですね、今言った、タイムアウトの取り方でどう変わってくるかいうところを子どもに見せながら指導してきたところです。次お願いします。これが、2セットなんですけども、さっきと同じです。だぶりましたね。このあたりの流れ、非常に苦しかったところです。バレーについてはですね、あまり指導、例というか、たくさん経験がないのでこの辺にさせて頂こうと思います。じゃあ次をお願いします。ただまあバレーはですね、不思議に縁が深くてちょうど10年やりましたけども、百島中はバレー部がありませんでした。土生中は生徒指導が非常に困難で出来ませんでしたけども、古巣の、先ほど出てきました重井中学校に限ってはですね、また不思議にバレーの指導をしてくれという話が出てきました、バレーの顧問がちょっと倒れたんで代わりにしてくれということで、教頭でありながら指導に入りました。結構楽しい思いをさせてもらいました。浦崎中でまた教頭で動きましたけども、ここでもなぜかバレーの顧問がですね、癌になりまして、入院中に関わりをもたせて頂きました。今でも重井中の保護者には先ほどのバレーの指導を通じて知り合った保護者がたくさんおりますので、「重井中に戻ってきてや」ということを聞くんですがなかなかうまいこと行きません。

さてここから、趣味の世界の話に入ります。私は体育を志しましたが、人の名前を覚えるのが苦手です。顔と名前がすぐ一致せんようになります。が、機械具についてはめっぽう記憶力が良くてですね、学校におきましてもどこに何の鍵があって、どこの鍵を使ってどういう風にかけるというのが、すぐ頭に入るんです。因島に赴任しまして、市内5校ある中学校の電話番号と番地は全部覚ええました。なぜかそういうものはすぐ覚えてしまうんです。ですが、人の顔と名前はすぐ忘れる。1番困るのが教え子なんです。「先生、わし覚えてる？」って近づいてくるでしょ。「うーん、ごめん忘れた。」っていうのがしょっちゅうで、特にこの年になると同窓会を開くでしょ。名札つけろって必ず要求するんです。そうせんと、分かんない。非常に情けない教員になりますけど、1番いけんのですよね、子どもの名前を覚えちゃれんのがですね。現場における時には、ええんですけどね。それでも夏休み開けたら、生徒の顔と名前が一致せんというのがよくありました。先生としては本当に情けないし、失格もんだなと思いますけども、そういう関係でここに書いてあるように1と2は機械関係なんですよ。これを趣味で始めとるんです。アマチュア無線は長いドライブをする時に、かみさんは大きい車を運転出来ませんので、私がします。そうすると、眠気が来るんで、アマチュア無線でしゃべりながらすると眠気が来ません。この為に資格をとってですね、家にも無線の機械を備え付けてアンテナ上げてですね、ちょこちょこやりおりました。重井中に通いよる時は、15分ありましたが、その時に因島と松永に毎朝相手をしてくれるおじいちゃんがありました。その人と毎日いろんな話をしながら通いました。今はやとりません。相手がおらんのです。携帯電話が普及してですね、もうこれほとんど使う人がいません。世界を相手にする人はおるんですけど、ここらでちょっと会話をするという使い方はしません。私も今は使ってません。2番目ですけども、これはですね、見たことないと思います。ポケットコンピュータというものです。もう1枚お願いします。外しましたらこうなります。で、ここがプログラミングをする色々計算とかをするものです、本体です。ここが、プリンター。こっちにですね小さいマイクロテープレコーダーですかね、なんか小さいテープレコーダーのテープがありますけど、これにですね、プログラムを記憶させるんです。1行1行ですねベーシックで全部作りました。なんで僕がこれにはまったかと言いますと、体育の成績を出すのに、例えば、50mの何秒なんぼより速いやつは10.何秒なんぼから何秒なんぼは9というようなデータをですね、人数が多いからいちいち手作業でやったらものすごく時間がかかるんですよ、それでこういうものを使うと素早く出来るなということで自分でプログラミングして、自分というよりも、もう1人先生と共同開発して体育の成績処理プログラムゆうのを作りました。これはですね、非常に後で役に立ちましてパソコン関係については非常に時代の先端を走るようになりました。だからですね、因島の中で言いますとパソコン関係でいうと私がNo.2ぐらいじゃないかなと思います。です

から123も使うようになりましたし、ロータスも使うようになりました。ワードはあまり好きじゃないので太郎を中心にやったりしました。その他画像ソフトも、ほとんど使える人がいない時代にやるようになりました。もちろん、ホームページ、ウェブページの作成についても他の人が全く知らないということで私だけがやったりしました。ですから、今の学校でもそうですが構内の、LAN接続にしても個々のコンピュータの設定は誰も分らないのです。私に分かるので全部設定しました。ですから自分のコンピュータ持ち込んでも設定できるんです。IQアドレスの設定とか、ドメインの設定とか色々ありますけど、全部自分でやりました。やれるようになりました。これ、趣味から入ったんですが仕事に生きております。こういうことでポケットコンピュータという言葉は現代でうたっております。

次に趣味の3つ目としてスキーです。これはあの大学の時にちょっと習ってまあおもしろいなと思って、だけど金が無いから出来ないなというのがその時です。で、就職したらやりたいなと思っていたのですが、縁がありませんでした。で、就職してからも青年スキーとかちょこちょこあったんですが、年に1回か2回程度でした。はい、これがあのスキー合宿の時代の写真です。左上に載ってるのが私ですが、右側の写真で分かる人はいたかなあ？知らん人ばかりかな。この方が確か依然私たちのチューターであった土肥先生だと思います。左下が今日来てるかなって思ってたんですが来てないですね。次行ってください。懐かしい写真。私の写真なんですが、スキーが好きになりまして。シャレではありませんよ。スキーが好きになりまして色んなスキー場に行きました。ニセコにも5、6回、7、8回行ってあります。それから信州の赤倉、八方それから中国地方で琴引。当然、瑞穂やらドルフィンバレーやら大佐とか芸北国際とかあらゆるスキー場ほとんど行きました。次お願いします。これはニセコの1番上のコースです。いわゆるゲレンデとして新雪、深い雪を味わうコースではありません。一般のゲレンデです。これが白い恋人が寄贈している温度計です。ニセコではね、冷え込んで寒いときでもマイナス15度までしか経験したことありません。これはわかりますかね？これは千葉県船橋にありました。南船橋駅にありました。現ラポポートという施設だと思えますけど、ザウスという屋内スキー場です。これはですね、見た通り帯広が写っているから分かると思うんですが、もの凄く高いところまでダアーっとこっちまであるんです。はい、右下がその中です。屋内でありながらゲレンデの長さ400mありました。で、1番上に急斜面があるんですがこれが20…2.3度、20度前後だったかな？3段階になってまして、1番急斜面があって、ちょっといい具合になって、1番下がなだらかな。で、右側に並んでるでしょう？これが上へあがる歩く歩道みたいなムービングベルトで上に上がるんです。で、1回行った時にムービングベルトは2段になっているんですが、上がった途中で乗り換えてまた次に乗るんです。みんな1番上に上がりたんだけど、上側のムービングベルトがめげましてね、途中で止まったんです。でも下からどンドン、どンドン、どンドン、どンドン人が上がってきますからつまりますよね。これは大事故になるぞとってみんな途中からこっちに逃げ出したんですけど、怖いと思いました。あの最近でもリフトがよう止まりまして、スキー場で宙ぶらりんになる人がようけいますけどこういう事故については気を付けてもらいたいと思います。次お願いします。これは懐かしい思い出なんですが、これはですね、今は無くなりました。教採の関係でスキーを楽しむ会というのがありました。そこに2年連続行かせてもらいました。この時が1番レベル的に伸びました。1日半ベッタリ教えてくれるので非常に伸びたことを覚えております。これが昔の私の愛車です。今はもうありません。次お願いします。これは、昨年だったか一昨年だったか分らないのですが、19年ということにしています。多分昨年だったと思います。佐原高原のスキー場です。「銀色のシーズン」という確か映画で放映されたと思いますが、映画のロケです。たまたま遭遇しました。ここに人がいますが実は私に付いてくれた人が撮ってくれました。1日目に。2日目は何故かロケの休養日だったらしくて私がここをバアーっと上がったら誰もいませんでしたけどこういうロケセットだけは見ることは出来ました。こういう場所にも行かせて頂きました。次、お願いします。趣味がこうじてですね、カナダまで行ってきました。カナダのリスラーは次回の冬のオリンピックの会場です。これはですね、ポールをやりおりますけども、このスキーツアーを専門にしておる旅行会社があります。これが必ずスキーツアー中に1回のレースをやってくれるんです。早い方がいいんじゃないかって、自己申告なんですね。3種類の滑りを見せてくれて、ついて行きました。会社員の人が1番速いカーリングでぎゃーっと行くやつと、ちょっとずらしての持久レベルの滑りと、それからトロッコ程度でいくレベルで、今は何秒ですよって、3種類、秒数を言ってくれる。で、自分は何秒ぐらいで滑れるなっというので自己申告します。その自己申告に1番近い人が優勝と。私は1秒5ぐらいずれてはずれましたけども、こういうところまでいきました。右上が泊まったところ。普通こういう旅行会社とかカナダのリスラーのホテルとか店というのはほとんど日本人スタッフとか日本語を使える人がいます。ですから、レストランとか入ってですね、分らないことあって、かなりの店がそうです。「ジャパニーズ プリーズ」と言えば日本語が使える人が出てきますんで、そういうことでかなり

行きやすかったです。ただこの、私が泊まったところのフロントには日本語が使える人が一切いませんでした。ですから英語でしゃべらないけなかったんですけども、これを目指して教頭時代、百島に通ってる時に、一生懸命英語を勉強しました。なんぼか通じましたね。一緒に行った人が全く知らなかった人で、ネットを通じて知り合った人と一緒に行きました。1人で行くのと割高になりますからね。で、その人と行ったんですけども、その人が体調を崩しまして1日ホテルで休みたいということで、まあそのことをフロントに言うとかないかんといい時に、習った英語がなんぼか役に立ったというところがあります。これは、一応、平成14年、これは百島中学校に教頭でいっとる時代です。1級までは一応とりました。ただこの1級はその当時の検定の内容がカーリングスキーの内容に偏り過ぎとった時代ですので、今の1級のレベルとは違います。今はいろんな滑り、いろんな斜面でいろんな滑りが要求されていますけども、この時は、ほぼカーリングのスキーの滑りが出来れば合格というような状況でしたから、小回りなんかもう下手くそでしたし、こぶがある斜面は滑れませんでしたし、深い雪にいけばぶち転げましたし、これが本当に1級で認められるんかって自分自身で疑問がわきましたから自分では思ってませんが、一応は資格を取っておこうというところがあります。これはあの、猫山水路のときに例の先ほど紹介しました、広島県の教採がくれたスキーを楽しむ会で習ったことを一生懸命練習しよったんです。そして猫山水路でリフトに乗ったらですね、隣に割り込んできたおっちゃんがおったんです。なんしにこの人は、ずけずけとこの場所にくるんだと思いましたらね、あなたのスキーが非常に切れるスキーができてるんで話をしようと思って乗ってきたっていうんです。その人が言うに、私は2級に合格して辞めたかったんですけども、どうも2級も取れそうにないと話されて、「2級は何のですか？」と聞くと、スキーの技能検定があるという話を聞いて私もそれを目指そうということで始めて、これぐらいまではいけたというところがあります。今もスキーはやっていて、このシーズンは5回しか行けておりません。なかなか行けないんですけども、もう雪がなくなりおります。寂しい思いであります。それではこれぐらいにして次お願いします。これは、私の昨年9月まで乗っていた車の中身です。あの、狂っているとしかいいようがありませんが、上にバーがありまして、そこへ常時スキーを3本、これ以外に家に2本ありますから5本あります。でも板が2本あって、パットスキーという深い雪を滑るスキーが1本、それからレース板が1本、と、いろいろ持ってるんで欲しい人はあげません。1本だけ、カービングが出た初期の段階のサーモンの板が170というのがあるんですけども、これは実際乗りません。板が柔くてですね、ちょっとスピードつけるとばたつき感があるんで、もう使わんようになりました。それくらいならあります。ただし中級レベルぐらいまでしか使えません。もし必要な人がおれば言ってください。邪魔になっておりますのであげます。ということです。今は車も手放してですね、車がありません。息子の車に乗りよったんですが、やっぱり気兼ねなんで、新しい車を買うことにしました。当然、車を買う時は四輪駆動です。スタッドレスもなんとか中古で調達するというところで、今準備中であります。

さて、いよいよ西村先生が期待されとった演題についてなんですけども、私、先ほど言いましたかどうか覚えていませんが、広島牛田の生まれです。右上にある写真が昔の牛田小学校の写真です。これは卒業アルバムから取りました。小学校6年生の時に岩国に転校しまして、岩国に半年間、でまた牛田に戻りました。が、中学校2年生の終わり頃に両親が離婚することになりまして、泣き泣き、今日の百島に行ったというところがございます。浪花節について、2番目なんですけども、浪花節というものはどういうものかっていうことです。これはですね、古くから伝わる浄瑠璃とか説経節とかですね、祭文語りというものが子孫なんです。いわゆる大道芸として始まりました。明治からです。で、大阪の芸人がですね、浪花伊の助という…失礼。浪花伊助か。が、行芸したと、この人の名前をとって浪花節と言われるようになったそうです。浪花節の1番最初の浪花という字とそれから、音で浪曲と言われることもあります。この浪曲についてですね、私がここに関わったことについてお話したいのですが、私がさっき、学生さん見たら分かると思うんですが、フォルダを作るのに、文左というふうに橋原先生は打ちました。この文左というのはですね、ここにありますが、長編歌謡浪曲の紀伊国屋文左衛門の文左からとられたものです。これやったらですね、先輩方が大ウケして喜んでですね、「文左衛門、文左衛門」と呼ぶようになってですね。文左衛門が長いから文左になったわけですね。未だにネットとかいろんなもののハンドルネームに文左と作っておりますけども、そういう中身であります。これ何で始めたかという、当時大学に入った頃、カラオケなんかありませんから、なんか芸をやるいうたら、それこそほんとは伴奏も何にも無しで歌を歌わなけんといかんかった。で、普通の歌じゃ歌謡曲じゃ面白くないということですね、なんか目立たんかなってですね、ちょうど小学校6年生頃に親父がレコード買って来た中に実はこの紀伊国屋文左衛門があったと。で当時聞いてまして、ちょこちょこ真似もしてました。完全じゃないですよ。こういった感じかなって真似をして歌っておりました。それを思い出してですね、急遽レコードのほうにかえて、擦り切れるくらい全部そうなんですけど、擦り切れるまで聞いて節々を覚

えました。これをやってですね、大学時代ほとんどいきました。途中から俵屋玄蕃、これは三波春夫がですね、農家なんです、紅白でも紹介して歌われました。俵屋玄蕃ね。でこういう長編歌謡浪曲というのは、浪曲の部分もあるんですが、歌謡曲の部分もあるんですね。普通の歌謡曲の1番、2番があって、それから講談状の節が入って、それから浪曲の部分が入る。という風に、長いんです。これ全部やりよったら、えーと、レコードで、大体13、4分。長編歌謡浪曲ね。15分近くかかります。ですから、通常はやりません。これだけで時間過ぎますので、で、これでも長いなーって思ってたんですが、ちょっと浪曲というものに非常に興味を覚えましたんで、これがちょっと有名だったんで、これを覚えようと、また25、6分レコードをLP版で、も一何べんも何べんも何べんも聞いてですね、全部覚えました。えーこれをあのコンパの席でやるわけです。今やったらですね、3分か4分やったらもう「長いぞー！！はいやめ！」とこうなるんですね。カラオケでやってもそうです。若い職員からは「長いのやるんですかあ。」て嫌な顔されるんで、今では全然やってません。これだけでは飽き足らずに、こういう浪曲も、まだ他にもたくさんあるんですけども、一応小さい頃に耳にした、さわり集というのをやっていました。後ほどやってみたいと思うのですが、例えばですね、ちょっとさわりの部分だけやってみましょうかね。歌謡曲の部分のあと、この紀伊国屋文左衛門。歌謡曲の部分でいきますと、そこはカットしまして、歌謡曲が進みます、そうすると講談調の口調が入ります。ちょっとやってみましょうかね。紀伊国屋文左衛門はこういう感じですね、

白装束に身を固め 梵天丸に乗り移った文左衛門
時に承応元年十月二十六日の朝まだき
此の時 遙か街道に駒のいななき 蹄の音は 連銭芦毛に鞭打って ばばばばばばば
馬上の人は誰あろう 歌に名高き 玉津島明神の神官 高松河内
可愛い娘の婿どのが 今朝の船出の餞けと 二日二夜は寝もやらず
神に祈願を こめました
海上安全守りの御幣 背中にしっかりとくくりつけ 嵐の中を歯を食いしばり
親の心の有り難さ 婿どの いや ったと駆けつけた

こうなるわけですね。その後にもまた浪曲が入るわけですけど、ちょっとこの方はやめときます。俵屋玄蕃も今のようにですね、同じようなパターンなんですね。ここはですね、最初の口調の語り始めが、これは時から始まりますね、

時に元禄十五年十二月十四日江戸の夜風を震わせて
響くは山鹿流儀の陣太鼓 しかも一打ち二打ち三流れ 思わずハッと立ち上がり

という口調で始まりまして、そこからまた浪曲に入っていくわけですが、浪曲の部分はちょっと割愛させて頂きます。かなり時間がせまっておりますが、それからですね、こういう口調でやるんですが、浪曲に入りますと、本格的な浪曲になります。ちょっとこの石松三十国船道中、これは耳にした人がいるかもしれませんが、触りだけやってみましょうか。

秋葉路や 花橘も 茶の香り 流れも清き太田川
若鮎踊る頃となり 松の翠の色も冴え
遠州森町良い茶の出所 娘やりたやお茶摘みに

というようなことで、要するに伏見から渡し船に乗って石松という人物がですね、これは皆さん知ってないと思いますが、次郎長一家というヤクザ者の一家がありまして、そん中で非常にはみ出し者ですね、片目が良くない、片目が見えないという子分がおったわけです。親分の命を受けて、本拠様にお礼参りにその帰りに船に乗った時の1つのお話をまとめています。こういうのをですね、長々とやっていたわけです。これも全部そうなんですけども、ちょっとさわり集に入りますと、いろんな人がいて、佐渡情話というのはですね、鈴木米若さんという方がおられますが、天保水滸伝いろいろありますが、ちょっとさわり集もやってみようかなと思ったんですが、かなり時間も押しておりますが、ついでにやってみましょうか。気になるんですけども。石松三十国ぐらいいもほんまにやったら20何分かかるんで、どこを抜粋してやろうかは非常に困ります。なので今日は割愛しました。飲み会があったら、そこで長々やらしてもらってもいいかなと思うんですが、今日は講演なので、これぐらいで勘弁して頂くと

して、天保水滸伝というのはですね、

利根の川風袂に入れて

という節回し。それから佐渡情話はですね、

佐渡へ佐渡へと草木もなびくよ 渡は居よいか住みよいか

という節回し。それから、壺坂靈験記はですね、

妻は夫を勞りつつ 夫は妻に慕いつつ

頃は六月中の頃夏とはいへど

片田舎木立の森もいと涼しい

というこういう節回しであります。

すいません。少しずれましたけど、こういう風にですね色んな浪曲があつてですね、不思議にその何故かこういうものに興味を覚えて、それをですね教職になつてもやりました。1番新しいところでは、行商時代に教育事務所の所長さんや課長さんとやりましたけどその方たちと2次会に行こうということになって、のこのこついて行きまして、その時にさっきの俵節玄蕃を1曲全部やりました。指導主任若いですから「長いなあ。」とかいいながら「まだあるんですか？」とか言われましたが、これで一発で覚えられましたね。やっぱり。どこかでぽつと研修なんかで顔出したら、「おっ！吉田先生。元気ですか？」とこう声を掛けてくれるんです。こういうとこで得するなとその時思ったんです。それでもなかなか校長には上がれなかったんです。顔覚えてもらうのには非常に有効な手段であつたかと思ひます。ということで行きましようか。

これが先ほど説明した通りであります。三味線が伴奏にあるんです。今はね、三味線ないですから。はい。それで今言いました、節回しと短歌があります。節いうのは、今のさわりでやつとつたやつです。短歌というのはさっき言いましたけど、落語調でやりとりをずっとやっていくところですね。短歌は長く修行がいるんだよと言われていました。

ちょっと真面目な話に戻りまして。仕事を振り返ってみてどうだったのかなあとということですね。やっぱりバレーボールを通して色んなことを学ばしてもらいました。部活の指導者というのはですね、この辺で為になる話をせんといけんかなあと思つてですね、自分なりにまとめたんですが、一生残ります。先般の正月にですね、同窓会をしたんですがやっぱりバレー部の子は寄ってきます。担任の子よりもっと寄ってきます。本当に一生残る先生なんでこれは心して欲しいなと思ひます。私は若い頃は試合中でもブチ怒られてましたが、これが間違ごうてたなとある日気付きて、何年目からは絶対試合では叱りませんでした。具体的な指示しかしてません。もうなんでもいいんですが、タイムアウトとって1点だけここをこうせいということだけしか言いません。そういう風にしたら子供もここをこういう風にしたらいいか1点分かりますので非常に動きやすくなるというのを感じてました。それからもう1点。たくさんの方がバレー部のコートの仲間とかそういうの中にもたくさん先輩が書かれますけど、いずれの先生とも似たような経験をしてるなと思ひます。やっぱり、“荒れ”と付き合いしました。11年間この因島の中でも1番荒れた学校に長くおられました。ここで11年間勤める前に先ほどの重井の南部地区の決勝でやりとりというようなところから、一転。もう部活動なんかどこ吹く風、授業もまともに成り立たないような学校に転勤でギャップがものすごく大きかつたので1年目は本当倒れるか思ひました。この時はですねもう1人女性の体育の先生がおられたんですけど、この人が貧血気味ですね、授業中でも授業をしながらバタンと倒れるんですよ。ほんなら女子の生徒がわしのところに来るんですよ。「吉田先生！誰々先生が倒れました。」で、わし行くでしょう。生徒に保健室行って休んでもらえって言うでしょう。で、あと続きをわしが授業をすると。男子も女子も両方授業してる時代が結構ありました。自分が生徒指導の方で期待されてこの学校に来られたんだということが分かってきて、やっぱ前輪たないかんという、1年目はちょっとそこまでよう出来んかつたんですが2年目は積極的に前に出ました。体を張つてですね、それこそ腕をねじあげたりですね、ぶち転がして上から押さえ込んだりですね、そのかわり絶対殴りませんでした。というのが転勤した理由というのがですね最後の年に生徒の顔面を拳でぶんどりました。これの為に目の中に内出血の血が出てきて、白目のところが全部真っ青になりまして、親御さんとかはさうでもなかつたんですが、じいちゃんばあちゃんが

泡ふいてですね、これはどうしてこうなったんじやと子供に聞いたら、机の角で打ったんじやと自分が悪いもんですからそういう答えだったんですが、周囲の情報から吉田先生が殴ったということがそのじいちゃんばあちゃんにばれました。そのじいちゃんが元警察官だったんで、これは告訴するということまで行かして、殴ったらとんでもないことなるなと身に染みしましたから、なんぼ荒れとっても手だけは出すと思いました。そのかわり足掛けて頭打たんように転ばせといて、馬乗りになって怒り上げるということはようやりました。体罰と今は捉えられます。今はもっと難しくなりました。そういう工夫をしながら前へ出るようになりました。前へ出て怒りあげてそのあと引っ張り込んでそのあと必ず説教するわけですが、その時に必ず担任との結びつきを作らせる。その学校で一番心配しよるこの学校で一番心配しよるんは担任なんじやということのをですね、しっかり教え込みました。自分が前出て、自分の言うことだけ聞かせたら子どもは絶対良くなりませんから、それも指導の中で勉強して分かったんですが、やっぱり親と結びつける。あるいは担任と結びつける。必ずこの時期の子にやってやらんと、その先生の前だけ分かったふりをしてまた同じことを繰り返しますのでそういう指導には十分気を付けてきたつもりです。で、そのお陰でわりと生徒指導には正誤体験を味わせてもらいました。中にはそういう指導をしても上手くいかなくて失敗経験ばかり積まれる方もいらっしやいます。教頭の中で出会った体育の先生の中にももっと前出えやと言ったら、「実は前出て強く出て失敗してきたんです」という先生が何人もいたんです。僕の場合はなんぼかこういうラッキーな部分があったかなと思います。こういうことです。それから授業の改善についても随分やりました。大学時代は授業さぼりっぱなしでしたから代返の王者といえますか、授業1つも出ずにですね、器械運動とかそうなんですが、宮本先生や橋原先生が「吉田！今日テストあるぞ。」と起こしに来てくれるんですね「んー。」と言って出て行って、やり方もなにも分かりませんから人がするのを見て、ふん、そーするんかい思ってこうやったら出来るんじやろうかいとやって出来たんです。それで可をもらいまして、なんとか卒業出来たんですが、授業じゃどう教えたらいのか自分じゃそれくらいのことしかしてないですからなかなか分かりません。ですから同僚の先生から盗みました。一生懸命、一緒に授業していても横でちらちら見てました。近くで見える時には絶対横でちらちら見てました。ああやってやるんかこうやってやるんかと時には質問しに行って、そやって盗んでました。1番効果あったというか1番楽しかったのは、授業の中でルールを決めてね、笛を長くピーといっぺん鳴らしたらやりよることをやめてこっちを向け、ピピピと3回鳴らしたら、10秒以内に集合じゃと徹底してやらせて遅れたらちよつとした罰をやらせました。そういうことやったら子供がゲーム感覚で動き出したんでおもしろかったんですが、そういうのは同僚の先生から学ばせてもらいました。それでは次お願いします。これはですね、部活動はこれからニュアンスがちよつと変わらして、学校活動の一環として位置付けられましたよという話ですね。はい、次お願いします。それから先ほど言いました、部活動の意義ですね、色々あります。部活というのはこうやってきたんだな、こういうものだったんだなと整理させてもらいました。はい、次お願いします。教師にとってもそうです。はい、次お願いします。自分の生き方どうだったんかなとちよつとまとめてみたら、1番に自分のよかったところはなんだったんだろう、素直さだったかな。人に言われたことに投げ返してそのまま知らんわと済ますのではなくまず受けてやってみるということに心掛けました。それから2点目に、やっぱりやるからには一生懸命やろうと、出来ても出来なくても一生懸命やる。西村先生によく指導されたのが「吉田は完全主義過ぎる。完全を求めちゃいかん。」100点を求めて、99点でも満足せずに、ダメじゃと思ひ込んで自分がその当時でした。それをいつも言うてたのをまだ覚えています。「99でもええ。あまりにも100を目指しすぎとる。」とご指導いただいたのを今でも覚えています。それから3つ目、別世界。これは先ほどの趣味の世界でいくつかスキーとかご紹介しましたが、これの別の世界があったためにですね私は今までなんとか持ち堪えられたんだと思います。気分転換の場所というのは必ずあります。夏の間は硬式テニスをちょこちょこやりました。やっぱり自分がやってないスポーツをやってみるのはいいかなと思います。バレーは最低6人制でいったら6人いないと出来ません。テニスは2人おれば出来ます。スキーは1人でも出来ます。少人数で出来るものを見つけてやるというのも、自分の趣味として持つておくといいのではないかなと思います。それから最後にですね、色んなところで私は同僚に対してそうですが、小学校の頃からそういうところがあってですね、人に喜んでもらおうという意識がすぐ働きます。時にはいかんのですよ、その人を甘やかしてしまったりあるんですが、その人に喜んでもらおう、目の前の人に喜んでもらおう、生徒に喜んでもらおう、保護者に喜んでもらおう。今日受けたのも実はそうなんですが、なんぼか喜んでくれる人がおっみたいですから頑張ってみようと思ったわけです。これで頑張ってきたので頑張れたんかなあ、このぐらいまでこれたんかなあとも思います。こういうことで自分を生き方を反省したり振り返ってみたり、ということが挙げられるんだと思います。今、因島の南ではですね、南の山中学校は統合されます。で、来年度が最後の1年になって、

平成22年4月開校に向けて今準備中です。で、校長になりますと校外の色々な動きにも全部対応していかなくてはなりません。閉校に向けてのPTA地域の取り纏め、教頭と一緒にやっていますけど、それから、逆にもう1つは開校に向けての寄付を集めようじゃないかという動きがあってそういうところにも世話していかないかんとということで学校以外の仕事もまた新たに付け加わってくるということで大変な1年になりそうなんですけど頑張っていこうと思っています。それで、最後に私はあと3年あるんですが、辞める時に考えるのでは無しに、3年後が終わった時にはこういう方向には進めるようには準備しとこうかなと思って今3つのことを考えています。1つはですねやっぱり中途半端に終わってしまっているバレーボールの指導ですね。3年、4年で転勤させられてですね、強いチーム作れなかった、だけど今バレーボールを志してやってる、地域の小学生。それから中学生がおるわけですが、そういう子どもらになんばか自分の事が役に立てばいいな。そういう所へもういっぺん戻りたいなという気持ちが1つ。それからもう1つはスキー三昧。これは先ほどスキーですけどももっとレベルアップするために平日スキーですね、これが夢ですので、これを満喫したいと思っています。それから先ほどのウィスラーだけじゃなしにスキーのスキー場を世界中のスキー場を滑ってみたい。オーストラリア、ニュージーランド、スイス、アルプス方面ですね。そういうとこれへも行ってみたいなという夢を持っています。国内にもまだまだ行ったことない所がありますので、そういうところにも滑ってみたいなということを今心の中で夢として、それを自分のこう発掘材料として、頑張っていくところであります。

ということで、ちょっと1時間ぐらいにしてくれという要請だったんですが、10分ほどオーバーしました。時間延長したことをお詫び申し上げます。こういうポツーンと離れた所におりましたので、大学とも本当に繋がりが薄くなってしまって気になっていてもなかなかこちらの方へは来れなかったというのもありました。これからはちょっとでもみなさんのお役にたてることがあったら手伝わさせていただきます。長々としゃべらせて頂きました。以上で終わらせて頂きます。ご静聴有難うございました。

<質疑応答>

戸石：失礼致します。58期の戸石と申します。貴重なお話有難うございました。えっと、吉田先生はお話の最初で叱られる事を大切にしたいということをおっしゃられていたんですけども、えっと教師をされていて生徒に対して叱る時に何に対して叱る事が多いですか？

吉田先生：はい。叱る時にはですね。あの、本人のやったことがいけんかったんじゃいう怒り方を必ずします。あの、本人が自分はダメなんじゃいう思いをせん・・・例えば、馬鹿たれがあ！何よんじゃ！？という事が先に出てですね、その後にお前のやったことはなんじゃったんか考えてみ！という様な方向で必ず変える。だけんお前はつまらんのじゃいう話をするやっぱりね、反感がおこります。

で、僕が1番それを思ったのが、実は初任の時の学校で生徒指導の主任をされていた先生が生徒を座らせて、30cmか40cmかの物差しで頬べたをビシッ！ビシッ！と叩きながらね、指導するんです。これは本当むごうて見とられなかったです。子供をどうですか？人間として扱ってないですよ？なんぼ悪いことしたから言うて。こういう怒り方したら絶対いけんなと思いました。それに、輪をかけてその何年後か分かりませんがその学校の近くに昼飯をお好み焼きを食べに行ったんですが、同僚と。春休みか、夏休みか忘れたけど、その時に若い人が入ってきて、そこのお好み焼き屋のおばちゃんはその学校に通っている生徒の保護者だったんです。それで学校の話が少しでてしよつたら、入ってきた若い人が「誰々先生お元気ですか？」と話しかけてきた。「ああ。元気ですよ。今どここの学校におられますよ。」ゆうて言ったらその若い子がどうゆうたかと言ったら、「あいつ死ねばいいのに。あいつだけは絶対許さん。」と言ったんです。それが今言うた頬べたを物差しで叩きよつた先生なんです。だから今でも胸を痛むんですけど叱るときはやっぱりその人が本当にその子のためを思っていることが伝わらないけませんし、伝わらなくても少なくとも本当に反省できる叱り方をせないかんてずっと思ってきましたし、そういう叱り方をしてきたつもりです。中心には先ほど言ったようにやった事がいけんかった。次にどうせないけんかったというところを叱る。そこですね、はい。よろしいですか？

戸石：有り難うございました。

山田：58期の山田と申します。大変貴重なお話有り難うございました。質問なんですけど、自分は今年広島県の教員採用試験を受けようと思っているのですが、先生が、吉田先生がこれまで教

師をしてきて、これから自分は教師を目指すんですけど師として1番大切な、大切にしなければならぬ資質というかそういったものはどういういったものだと考えますか？よろしくをお願いします。

吉田先生：資質。いろいろあると思うんですけども1番、1番の柱はそれが子どものためになるのかどうかということを考えられるかどうかだと僕は思っています。自分が成功したい為にやる人が中にはいるんですよ。自分が脚光を浴びたが為に、例えば授業研究で華々しくやるだとか、そういうんはちょっと違うだろうと思いますね。やっぱり、このやっとなることがどう子どもに結び付くのか常に視点からはずれない教師であって欲しいと思いますね。それともう1つはですね。いっぱい言うちゃいかんのですがもう1つだけ言いたいのはやっぱり、人との繋がりをどれだけ作れるかということ資質として大きいと思います。単独で動いても絶対子どもはゆだねません。学校は組織ですからその組織の中で、どういう風に繋がりを持ってみんなと動いていけるかというコミュニケーション能力というのが非常に求められます。今はもう本当に時代が複雑で困難なことたくさんありますので、特にそこをやらないといけません。自分で抱える人は抱え込みすぎて悩んで倒れてしまうことにもなります。なりかねませんのでいろんな人にうち明けられるよう、あるいは相談したり、あるいはそういうことを繋がり合う努力が出来る。そういう人であって欲しいと思っています。はい。以上の事二点。思い付くままですけど大事にして頑張ってもらいたいと思います。

山田：分かりました。有り難うございます。

谷：失礼します。57期の谷と申します。興味深い話有り難うございました。吉田先生が今までの教員生活の中で部活動指導とか、生徒指導とかどの場面でもいいんですけど、教師をやっててよかったと思える瞬間というのはどのような時だったのか教えて頂きたいと思います。

吉田先生：そうですね。指導していて教員をやっていたよかったなという場面はですね。やっぱり卒業の時ですね。大人になって、社会人になって同窓会の時に感じることはよくありますけども、生徒がおる3年間でどこで1番喜びを感じるかという卒業を迎えた時に、子どもがどういう事を言ってきてくれるか。特に子どもが卒業することが本当に卒業式、卒業証書授与式になってますが最後の最後で、この学校で頑張ってきたよかった。いろんな思い出が作れた。涙がポロポロと流れる。そういう卒業を迎えてくれる。子どもがそういう卒業の場面を迎えてくれる時に“ああ、いいな”と僕は思います。はい。それ以外じゃ日常はいつも悔しいし、悔しい思いをしたり、ちくしょうと思ったりすることがしょっちゅうありますからなかなか難しいんですけどその場面では子どもが感激してくれる最後を迎えさせてあげた。あるいは迎えてくれた。そういうことでジーンときますね。はい。

谷：有り難うございました。

小倉：失礼します。58期の小倉です。浪花節を始めて聞くことが出来てとても嬉しかったです。有り難うございました。質問があるのですが、私は小学校の教員を目指しているのですが、生徒指導の授業とかでも生徒を受け入れたり、共感したりすることが大切だと習ったんですけどもそれでもやっぱり実際、いじめとか荒れとか様々な問題に向き合っていくのはいけないと思うととても不安があるんですけど、そういうのと向き合う時に大切にしないでいいこととか、どういう姿勢で向き合っていけばいいのかということをお聞きしたいです。お願いします。

吉田先生：あの非常に難しい問題を質問されてきましたね。自分の経験からいじめの問題というのが1番難しいんですね。いじめと側はいじめを認めませんから、そこが指導として1番難しいんで、まだ荒れなんかはね、自分がやったことが目に、自分がやったことがはっきりしているのでもいいんですがいじめの場合集団でやっていますでしょ？大抵の場合ね。そうなるとなかなか自分の責任子どもが返してくれないのでどういう心構えでいけばいいのか非常に難しいのですが、今思っているのはやっぱり諦めない。うん。諦めない。これが1つ。もう1つは信念を持つ。いつかは分からせてやりたい。いつか必ずこの問題は解決するんじゃないよ。その熱意。そういうのがいると思うね。じゃけえなくなったわけじゃないよ。いろんなもの合う、合わんがあるからでも気持ちとしてそこまでは持つとかんといかんなどは思います。つついおるんですよ。なかなか好転せんと。これは今年の今私が赴任している学校の3学級の実は女の子同士のトラブルなんですけど。1人ボス的な動きをしていてですね、この

グループの中で4人ぐらいのグループなんですけど。こっちの1人と話してるときは他の2人の悪口を言う。こっちの女の子と話してるときはこっちの悪口を言うということをやっていたボス的な女の子がいたんですよ。言われていた生徒同士がひょんなことからその話になりまして、何！？ということになってその女の子をはねにしてしもたんですよ。で、シカトしましたんですよ。そのためにその子が学校に来れなくなってどうとりつくって、どう話しても両方とも譲らないんですね。ボスの方は、ボスゆうちゃいかんのですが、その中心的人物。はねにされた女の子は、そんなに悪いと思ってない。だけどこっちの方はそういうこと許せん。で、3人おったうちの2人は“まあ、そういうても学校来れんようになっちゃいかんけんとか話し合いしようや。”言うて話はするんですけど最後の1人はどうしても許せんゆうて最後まで堪忍しなかった。とうとうその女の子はしょうがない言うことでよその学校に転校しました。その時の担任は本当にやせ細りました。だけどなんとかしたい言うてですね、日夜生徒の家庭訪問したり、学校で子どもたちと話をしたり取り組んでいました。不幸にして解決する場面があるのかと、でもそういう熱意を持ってその先生は取り組んでいましたね。答えになってないかもしれませんが。こっちの思いは絶対に教師としてある限りはそこを諦めちゃいけない。最後まで。もうどうもならん！もうええわ！どうにでもなれ！と思ってしまうたら終わりじゃということですね。僕はそう思っています。はい。あまりええ答えにはなってませんが。

小倉：有り難うございました。

内原：59期の内原です。貴重なお話有り難うございました。質問と言うよりは感想なんですけど、浪花節を披露された時に、橋原先生とかがすごく嬉しそうな顔をしているのを見て、えっと自分たちもそういう仲間といくつになってもそういう風にできる関係を作って行きたいなと思いました。貴重なお話、有り難うございました。

吉田先生：あの、橋原先生それから宮本先生それからあの西村先生、あの程度のさわり…この程度のさわりでご了承頂けたら有り難いんですが、よろしいでございましょうか？西村先生は物足りんような顔をされていますが…これだけの話これだけの時間になりましたんでお許し下さい。また、一緒に飲む機会があればよろしくお願いします。